

Title	倫敦に於ける日本及び他国の市債
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.1 (1914. 1) ,p.90- 96
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140100-0090">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140100-0090</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 倫敦に於ける日本及び他國の市債

エコノミスト

本篇は一九一三年十月廿五日の「エコノミスト」所載 Foreign Municipal Issues を譯出せるものなり

相當の収益を收め、而も可成確實なる投資の目的物を求めんとする人々にとりては、市債は其の内地、外國、又は殖民地、何れに於て發行さるゝものなるを問はず、最もよく此の目的に適ふものゝ一例なりと謂ふ可し。其の市民が相當の文化の程度に達し、市債甚だしく多額に上らず、且つ其の市政、公正にして宜しきを得たる大都市が、都市發達の自然的要素を有し、且つ將來他の地方に依りて奪るゝの虞なき産業又は海運業を有する場合にありては、其の發行する市債は、投資物として最良最善の證券なりと云ふことを得べし。然りと雖も都市が鑛山、野生物の採取、或は港灣によりて其の繁榮を致す

場合に在りては、其の鑛山が以後數年にして必ず採掘し盡さるゝものなる時、或は其の野生物が培養品と競争し得ざるものなる時、或は又其の港灣が年々沈澱物の爲めに水深を減殺されつつあるものなる時は此等の都市の發行する市債は利子の收得を多少増加するとよりも寧ろ元金を失はざることを以て得策となす投資家の忌避す可きものなりとす。常に革命擾亂の患ありて、唯だ兵力によりて其の秩序を維持せる未開國に於て其の市政の強固、確實を缺ける都市の市債も亦必ず避くべきものなり。されど苟も、若し上に述べたる總ての條件を具備する場合にありては、投資家たるものは、其の内國市債たるゝと、殖民地市債たるゝと、將た又外國市債たるゝとを問はず其の發行を歓迎せざる道理ある可からず。尙茲に記憶すべきは市債證券の賣買が容易なるか否やの一事是なりとす。蓋し小都市の市債が株式市場に於て取引せられざることは他の點に於て申分なき場分に於ても此等小都市の

下なる場合には計出利廻は各其の最少限度を示すに過ぎざるものとす。

倫敦株式取引所に於て賣買に附せらるゝ諸外國市債證券は之を三種に分類せり。即ち歐洲の部(露西亞を除く)、露西亞並に日本の部、及び亞米利加の部のなり。大陸諸國の市債の數割合に少なきは、此等の都市の大部分がわが國に倫敦に市債を募集せずとも各自其市内に於て財政の始末を付くることを得るが故なり。左の表中特に吾人の注意を惹くに足る可きものは「阿姆斯特ダム」市債の相場の低きこと是なり。同市債は毎年全市債の三十分の一宛抽籤償還さるるものなるにも拘はらず嘗て一八九八年に約九十五磅半に騰貴せしものが今や八十九磅半に下落せり。上述せる如く次表に記せる同市債の利廻(三分)は其最少限度を示すものなるが、同市債の平均利廻(即ち一人の買主が未償還の同市債の全部を買收せるものとせば同人の收得す可き利廻)は四磅十志に相當す可し。

市債の一缺點に數へざる可らず。惟ふに小都市が市債を起さんとする場合には、當然自國內にて之を募集す可きものなり。而して利子歩合の高き市債に應募せる者は其資本を固定すると、少くとも、之を回收するには比較的手數を要するものなることを豫め覺悟せざる可らず。然り而して本年十月下旬聖彼得堡市債が倫敦に於て發行されたるを機として、此際倫敦に於て取引さるゝ外國市債に付て、一小研究を試みるは無用の業に非ざる可し。勿論今日の露西亞に於けるが如く、進歩と保守の二大勢力の軋轢極端に走れる處にありては、其の國の將來を豫想するは至難のことなるも、而かも吾人が本誌紙上に於て屢々論せしが如く、莫斯科及び聖彼得堡の如き大都市の市債が帝國政府其物の公債よりも有利なる場合絶無なりと云ふ能はざるなり。

次の數表に示せる外國市債の利廻は、其市債が全部最終償還期に於て償却せらるるものと假定して計算せるものなるを以て、市債が額面以

歐洲の部

市 名	利 子	價	還	千九百十三年 十月廿一日相場	利 廻 (百 磅 二 付)
ハールハス(丁抹)	四 步	毎年抽籤(一九〇九—一九一四)	九三、	九三、	四一〇—一三
アムステルダム	三 步	均分抽籤(一九〇〇—一三〇〇)	八九、二分ノ一	八九、二分ノ一	三一七—一六
ベルゲン(一九〇九)	四 步	均分抽籤(一九〇〇—一五〇〇)	九一、	九一、	四一〇—一〇
ブダペスト	四 步	繰越抽籤(一九〇〇—一六〇〇)	八四、二分ノ一	八四、二分ノ一	四一七—一六
クリスタリア	四 步	均分抽籤(一九〇〇—一三八〇)	九四、	九四、	四一八—一六
コンスタンチノープル	五 步	繰越抽籤(一九〇〇—一六〇〇)	九七、	九七、	五一五—一六
(土耳其政府保証付)					
コペンハーゲン(一九一〇)	四 步	繰越抽籤(一九〇〇—一七〇〇)	九三、	九三、	四一六—一〇
ゴッセンブルグ(一九〇九)	四 步	均分抽籤(一九〇九—一四九)	九三、	九三、	四一〇—一三
ヘルシングボロ(一九一〇)	四 分五厘	繰越抽籤(一九〇九—一六一)	九七、	九七、	四一五—一〇
ストックホルム	四 分	繰越抽籤(一九〇〇—一四一)	九六、二分ノ一	九六、二分ノ一	四一六—一三
タマフオルス	四 分八厘	繰越抽籤(一九〇〇—一五〇)	九三、	九三、	四一八—一三

「バルカン」の風雲急を告ぐるに至りし時、市債の市價は自然暴落を來せしが、大體に於て外國市債は英國市債よりも其影響を蒙ること甚だしかりき。爾來時に回復せしことなきに非ざりしも市價は益々低落し、上記の表に於ける市債の如き其の大多數は一年前に比すれば一磅乃至五磅の下落を來せり。其の一例外は表中唯一の五分利付たる「コンスタンチノープル」市債なりとす。即ち昨年十一月初めに於ける同市債の時

價は九十三磅にして其平均利廻五磅八志六片なりしが今や九十七磅に騰貴せり。此の市債は土耳其政府の保証する處にして其の市債の如く回復せし一原因は開戦に際し、凡ての土耳其有價證券の低落甚だしかりし時に、此の市債の暴落も亦極端に及びしによるものなり。次の表は露西亞及日本の都市の有價證券を示すものなり。

露西亞及日本の部

市 名	利 子	價	還	千九百十三年 十月廿一日相場	利 廻 (百 磅 二 付)
莫斯科	五 分	繰越抽籤(一九一—一六〇)	九三、	九三、	五一九—一〇
名古屋	五 分	繰越抽籤(一九五七年迄)	一〇二、	一〇二、	四一七—一六
大阪	五 分	繰越抽籤(一九一七—一四三)	八九、	八九、	五一五—一六
サラトフ	五 分	一九一九—三九	九一、	九一、	五一七—一三
東京	五 分	抽籤(一九〇九—一五七)	九七、	九七、	五一五—一六
同(一九一〇)	五 分	抽籤(一九一〇—一五〇)	九〇、	九〇、	五一六—一〇
ツイルナ	五 分	抽籤(一九一三—一七五)	八九、	八九、	五一四—一六
横 濱	五 分	一九二四—五四	八六、二分ノ一	八六、二分ノ一	五一六—一六
ニコラエフ	五 分	抽籤(一九一三—一六二)	九二、	九二、	五一二—一〇
聖彼得堡	四 分五厘	抽籤(一九一五—一八二)	九六、	九六、	五一五—一三

\*印は十月二十四日相場なり

前表中新聖彼得堡市債を除けば他は皆、何れも五分利付にして、而して市價は過去一ヶ年間に於て何れも下落せり。只莫斯科市債のみは昨年の當時に於けるよりも三磅方騰貴せるを見るのみ。去る十月下旬募集されたる聖彼得堡市債は額面以下に下落せしが、今や平價に回復せり。

其應募高は募集高の約五割二分にして此の結果は近時に發行されたる他の證券に比して遜色なしと謂ふ可し。其の發行價格は九十三磅四分の三なるを以て其の利廻は四磅十六志に相當せり。こは露國政府の認可を経て發行したるものなるのみならず、同市の財政状態は又健實なる

もの、如し。如何となれば同市の貸借対照表によれば、全市債九百五十萬磅弱に對し、二千六百五十萬磅の剩餘を示せるを以て也。

東京市債は日本市債中最も多額に上るものなるが、日本帝國財政と密接なる關係を有するにも拘はらず、政府の保證を有せず。上述の表に於ける日本市債は昨年以來何れも皆三磅乃至四

磅下落し、其の利廻は帝國公債よりも甚だ高し其の原因は勿論都市が、日本に頻々起る地震の爲めに打撃を蒙ること中央政府よりも大なるによるなり。  
亞米利加の部には絶對的に確實なる紐育市債を含むの外、他は皆南米諸共和國に屬するものなり。

亞米利加の部

市名	利子	償還	利同
バイア(市)	五分	抽籤(一九一三—一六三)	一九一三年十月廿一日相場
バイア(港)	五分	抽籤(一九一三—一七二)	七五、二分の一
ペロ、ホリヅンテ	六分	繰越抽籤(一九〇九年—一三三)	八四、
アエノス、アイレス	四分五厘	繰越抽籤(一八八九—一九二八)	九九、
同(一九〇九)	五分	繰越抽籤(一九〇九—一四六)	九六、
リマ	五分	繰越抽籤(一九一六—一五三)	九九、
マナオス	五分五厘	繰越抽籤(一九〇七—一三六)	八八、
メキシコ市	五分	繰越抽籤(一八八九—一九四八)	九一、二分の一
モンテヰイデオ	五分	抽籤(千分の五)	九三、
紐育	四分五厘	繰越抽籤(一九〇五—一五五)	一〇五、二分の一
バラ(ベレム)	五分		八〇、

バラ(港)	五分	一九五七年	七三、二分の一	七—二一九
ペロタス	五分	繰越抽籤(一九一三—一六〇)	九〇、	五—一四—三
パイナムプロ	五分	繰越抽籤(一九一—一六〇)	八九、	五—一五—六
ポルト、アレグレ	五分	繰越抽籤(一九〇九—一四四)	九二、	五—一三—九
リオデジャネイロ(市)	四分五厘	抽籤(一八八九—一九三〇)	八八、二分の一	五—一—九
同(聯邦州)	五分	抽籤(一九〇四—一五四)	九一、二分の一	五—一〇—三
ロサリオ(市)	四分	抽籤(一九一七年ヨリ)	六六、二分の一	六—四—〇
サントス(市)(一九一〇)	六分	繰越抽籤(一九一〇—一六〇)	二〇一、	六—〇—〇
サン、パウロ	六分	繰越抽籤(一九〇八—一四四)	二〇一、	六—一—六

紐育市債を除けば、亞米利加州の公債及市債は米國鐵道會社々債券と同一程度に英國投資家の需用を喚起する能はざるのみならず、倫敦に於て、之が取引されること殆んどなし。大多數の南亞米利市債の利廻は現今五分五厘乃至七分二厘五毛の間にあり。而して其中尤も時價の高きものは「ブラジル」及「アルゼンチナ」の首府の市債なりとす。然れども「ブラジル」は護謨業隆盛の誘致せる大繁榮の後を受けて今や財界の恐慌に苦しみ、其の市債の相場は急轉直下の勢を以て低落しつつあり。例へば去る一月九十四磅

半を以て發行せられたる百六十萬磅の「バイア」市々債は現に七十五磅半に暴落し、其他南亞米利加の市債にして之と同しく低落せるもの少なからず。其の中最も顯著なるは「バラ」港市債にして昨年十一月に比し正に二十磅の下落なり。「サントス」市及「サン、パウロ」六分利付市債は其の利廻多く共に其の時價は額面以上にありて昨年と同じ。「アルゼンチナ」國の市債にして倫敦の相場表に上るものは僅々數種に過ぎざるが、此の中、利子仕拂に關し其の債權者と特に約定を締結せざるを得ざりしものは、「コルドバ」

及「ロサリオ」の二市なりとす。即ち「ロサリオ」市の四分利付市債券の所有者は本年五月迄は其の利子の中二パーセント四分の三は現金残り一パーセント四分の一は手形にて受取り居たりしが、同月に至り始めて利子を全部現金にて受取ることとなり且つ減債基金も開始せられたり。現時に於ける市債の利廻の収益は六磅四志に相當す。(向井鹿松)

## 新聞賣子の研究

中 村 桂

其一 我新聞紙及新聞賣子の沿革  
我新聞賣子の研究を爲すに先達ちて吾人は先づ新聞紙の沿革を説かざる可らず、思ふに新を好み奇を喜ぶは人の常情なるを以て、世人は出逢ひ頭にも何事か變れる事を尋ぬるものなり、即ち是より所謂風評或は風聞なるもの起り、而して其風評風聞を文字に現はしたるものを新聞紙なりとす。

されば古來苟くも多少民族の集合する所には必ず新聞紙類似のものあり、就中古今共に戦争は一國の運命を賭する一大事件なれば、双方の國民は一刻も早く其狀況を知らんと欲するより自然戰況を報ずる機關として新聞紙類似のもの發達す、例へば古代羅馬に於てはカーセージとの戦争の時新聞紙起り、英國に於ては西班牙の

アルマダ侵入の時其戰況を報せんが爲に新聞紙起りしと云ふ。

我國に於て新聞紙類似のもの云へば、後冷泉帝の時權大納言源隆國が山城の宇治に別荘を構へ、往來の旅人を休息せしめて諸國の奇事珍談を聞取り、今昔物語及び宇治集彙物語を著せり、(西歴一〇四五年)是固より一時の慰みに過ぎざる可しと雖も、其性質上より云へば新聞紙の一種にして此宇治大納言は少くとも新聞記者の元祖と稱する事を得可し、降つて元祿時代に及びては讀賣なるもの盛に行はるゝに至れり、是は其時々に於ける各地各種の天災地變を初めとし、孝子の仇討、惡漢の兇行、男女の情死、其他あらゆる奇事珍談の現はれたる際之を出版して賣り歩きたるものにして、初めは單に粗末なる繪畫のみなりしが後には文章を以て説明を加へ、其文句を讀立て乍ら市中を賣り歩くに至れり、彼の近松の淨瑠璃物の如きも多く其時時の出來事、就中男女の情死、惡漢の兇行等を

其盡材料にとりて仕組み、而して是を讀賣せるものなるは人の良く知れる處なり、此讀賣は所謂不定期刊行の新聞紙にして、現に元祿十五年赤穂浪士復讐の時義士の高輪泉岳寺へ引揚ぐる時分には既に斯の如き事行はれたりとの事にして維新後も尙數年間此讀賣は行はれたるなり現今の讀賣新聞の如きも此讀賣に其端を發して以て今日に至れるなり。

以上は單に新聞紙の卵子とも云ふ可きものにして、前述せる如く新聞紙の發生若くは發達は國家の一大事變に伴ふものなれば、我國に於ても今日の所謂新聞紙なるもの、初めて發生したるものは明治維新の變亂の際にして、就中最も盛に發刊せられたるは慶應戊辰上野戦争より奥羽戦争の頃なり、而して今日の如き日刊新聞の發刊せらるゝに至りしは四年以後の事にして、爾來新聞雜誌は目を追て盛となり、明治六年六月末には七十九種となり、十二年六月末には増加して百九十二種となり、爾後年々増加して遂